

## ■動向

# 次世代放射光施設の推進に関する状況について (4)

## —量子科学技術研究開発機構と光科学イノベーションセンター間の連携協力協定の締結—

内海 渉 (国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 高輝度放射光源推進準備室)

前号の本欄で、本年7月3日に「官民地域パートナーシップによる次世代放射光施設の推進」に関し、一般財団法人光科学イノベーションセンターを代表機関とする、同財団、宮城県、仙台市、国立大学法人東北大学、及び一般社団法人東北経済連合会がパートナーとして選定されたことを報告した<sup>1)</sup>。その後、文部科学省から本件に関する2019年度概算要求が出されるとともに、「整備・運用の検討を進める国の主体」に指名されている量子科学技術研究開発機構(量研)と「パートナー代表機関」である光科学イノベーションセンターとの間で連携協力協定を締結したので、それらの概要を紹介する。

### 1. 2019年度概算要求

2019年度の概算要求に関しては、文部科学省科学技術・学術政策局 研究開発基盤課 量子研究推進室が中心となって検討・作業が行われた。その結果、官民地域パートナーシップによる次世代放射光施設整備に着手するために、「次世代放射光施設整備費補助金」として42.0億円、必要人件費等を含んだ「高輝度放射光源共通基盤技術研究開発費補助金」として3.7億円が、文部科学省の概算要求に計上された。これらが2019年度予算として認められるよう、12月の予算内示に向けた財務省との折衝が、現在行われている。

### 2. 連携協力協定

7月3日のパートナー選定決定後、量研とパートナー機関との間で、次世代放射光施設の整備・運用に関する詳細を具体化するための検討・調整を開始し、整備スケジュールや整備・運用段階における役割分担、組織・体制、建屋、加速器、ビームラインなど、種々の協議を進めている。今回、連携・協力の枠組みをより強固に構築し、今後の検討・調整を円滑に進めていくために、量研と光科学イノベーションセンターとの間で連携協力協定を締結することに至った。

正式名称を「次世代放射光施設(軟X線向け高輝度3 GeV級放射光源)の整備・運用等に係る詳細の具体化に関する連携協力協定」と題する本協定の概要は以下の通りである。

### 1. 協定の目的

次世代放射光施設の整備・運用等に関する詳細の具体化について連携協力するために必要な事項を定める。

### 2. 役割分担

量研は、「新たな軟X線向け高輝度3 GeV級放射光源の整備等について(報告)」(平成30年1月18日 科学技術・学術審議会量子ビーム利用推進小委員会)の内容を踏まえ、光科学イノベーションセンターと協力して、施設の整備運用等に関する詳細の具体化に向けた検討・調整を行い、その結果、求められる役割を履行する。

光科学イノベーションセンターは、量研と協力して、施設の整備運用等に関する詳細の具体化に向けた検討・調整を行うとともに、科学技術・学術審議会量子ビーム利用推進小委員会に提出した提案書やヒアリング内容等を履行する。

### 3. 連携協力の範囲

次世代放射光施設の整備・運用等を進めるための①体制構築と運営、②情報共有と利用、③計画管理と調整、等について、具体的条件を定めて実施する。

### 4. 署名者

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構

理事長 平野 俊夫

一般財団法人 光科学イノベーションセンター

理事長 高田 昌樹

### 5. 締結日

平成30年9月12日

本協定の締結にあたり、9月12日に文部科学省記者会見室にて、関係者列席のもと署名式が行われた。式には、署名者である平野俊夫 量研理事長、高田昌樹 光科学イノベーションセンター理事長のほか、パートナー機関から、村井嘉浩 宮城県知事、高橋新悦 仙台市副市長、矢島敬雅 東北大学理事、向田吉広 東北経済連合会副会長、文部科学省から山脇良雄 文部科学審議官が出席され、それぞれの機関における取り組みや次世代放射光施設に対する期待などが述べられた。署名式の様子は新聞等で報道され、東北地域ではTVニュースでも取り上げられたようである。

本件を基本協定として、より具体的な個別内容について、量研と光科学イノベーションセンター間の協議を加速



連携協力協定署名式（平成30年9月12日）における関係者集合写真  
左から、向田副会長（東経連）、矢島理事（東北大学）、村井知事（宮城県）、高田理事長（光科学イノベーションセンター）、平野理事長（量研）、山脇文科審（文部科学省）、高橋副市長（仙台市）。

し、必要なものについては、今後さらなる詳細な協定あるいは覚書に類するものを締結していくことになると考えている。

なお、本協定の締結を受け、量研と光科学イノベーションセンターが共同主催する「次世代放射光施設シンポジウム」を本年11月25日（日）に仙台国際センターで開催する<sup>2)</sup>。シンポジウムでは、量研及び光科学イノベーションセンターからプロジェクトの概況について説明するとともに、

加速器、建屋、ビームラインなど個々の準備状況についても報告する予定である。多くの方々にご参加いただければ幸いである。

#### 参考文献

- 1) 次世代放射光施設の推進に関する状況について (3)―官民地域パートナーシップ具体化のためのパートナー及び整備用地の決定―、放射光 **31**, 288 (2018)
- 2) <https://www.3gev.qst.go.jp/>